

## 【作文の部】 文芸賞

「おばあちゃん」

新鶴小学校 六年 鈴木 士道

ぼくには三人のおばあちゃんがいる。でも、そのうち一人は父と母が結婚する前になくなってしまったそうです。父のお腹には、肝臓移植手術のあとがあります。何のあとだろうと思って聞いたら、父は、

「おばあちゃんを助けるためにやったんだよ。けれども、お父さんが麻酔いから目を覚ましたら死んじゃってたんだよ。」

と、悲しむ調子でもなく教えてくれました。（本当はとても悲しかったんだろうな。こうやって普通にしゃべってくれるけど、この話をするたびに悲しみがあふれてくるんだろうな。）と父の気持ちを思いました。

でも、今、ぼくには二人のおばあちゃんがあります。父からその話を聞いたとき、今のおばあちゃんは血がなくなつたおばあちゃんではないことを知りました。ぼくは、何だか分からないけれど、ショックを受けました。おばあちゃんとうまく話せなくなって、話し方も敬語でするようになってきました。それでもおばあちゃんはいつも明るくて、にこにこして、ぼくに優しくしてくれます。ぼくの話をよく聞いてくれるし、学校行事にも来てくれたり、何か賞をもらったりすると、すごく喜んでくれます。料理も上手で、手

のこんだちらし寿司などを作ってくれます。中でもぼくが一番好きなのはラーメンで、どこのラーメン屋さんよりも、おばあちゃんのラーメンが一番おいしいです。

おばあちゃんには、生まれたころからずっと面倒を見てもらっているし、たとえ血はつながっていなくても、ぼくのおばあちゃんだと本当に思っています。けれども、手術までした父の気持ちを考えると、おばあちゃんに甘えるのは悪いかなと思ったりするし、おばあちゃんを困らせたり悲しませたりしないようにしようと思うと、素直に自分の気持ちを伝えることができません。

最近ぼくはおばあちゃんと話をしていません。だから、これからもっと親しく話したい。うれしい気持ちを、感謝の言葉を伝えたい。(ありがたいの気持ちを手紙に書いて伝えようかな。肩をもんであげようかな。この作文でおばあちゃんにいつも言えない感謝の気持ちを書こう。)

「おいしい料理をありがとう。」

「病気の時、心配してくれて、ありがとう。」

「ドッジボールの大会で、優勝したときにほめてくれて、ありがとう。」

「マラソン大会で結果が悪くても、ほめてくれて、ありがとう。」

「ずっと優しくしてくれて、ありがとう。」

ぼくは、大好きなおばあちゃんにいつまでも元気でいてほしいです。ずっと家族みんな仲良くしていきたいです。

おばあちゃんがほめてくれるから、ぼくはがんばれる。だから、これからもっともおばあちゃんを大切にしたい。

